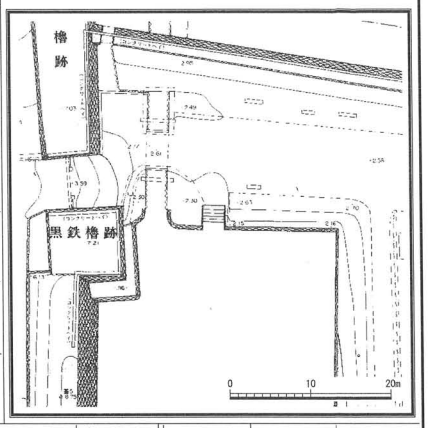
史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3029	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	切石	石垣位置
石垣部位	石段（後世のもの）				石積工法		
方　位	南				角石（算木） 左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木） 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	－				石材	花崗岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b3	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.76	－	－	－	－	－	－	－	－	－

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

切石の階段

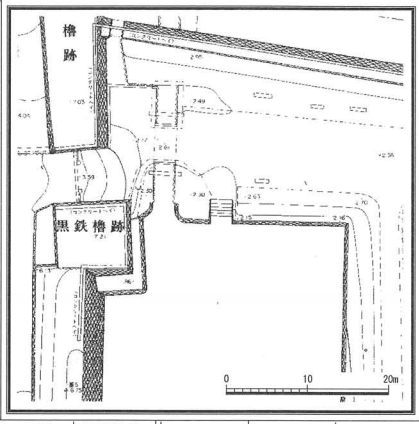
備　考	雁木８段、側面なしのため計測不可	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸の北西部で内堀に下る石段である。 ・上段での幅員は約2.8mである。
積み方石材等	・花崗岩の切石を用いて積み上げられている。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・明治以降水門設置時に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3030	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	切石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	布積	
方　位	東				角石（算木） 左	算木にならない	
角の形状	左隅角	出			角石（算木） 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好										有	a3	b3	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.48	0.93	1.72	-	0.2	77	90	90	90	-

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

切石布積、目地モルタル詰め

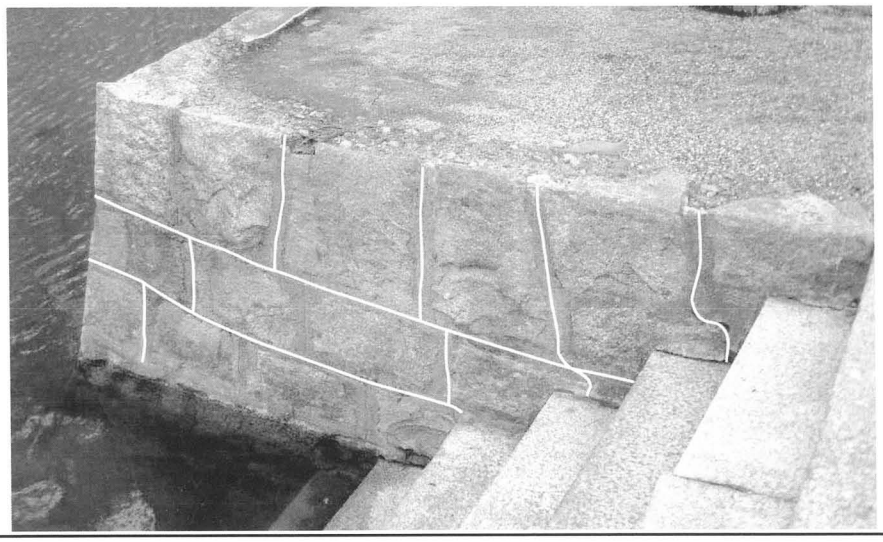
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は三ノ丸の北部で内堀に下る石段の側壁の東面石垣である。 ・高さは左隅角で約1.7m、全長は天端で約2.8mである。 ・勾配は90度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の切石を用いた布積で、目地にモルタルを詰めている。左隅角は切石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形で、規模は標準的なもので揃っている。 ・左隅角は算木積になっていない。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・明治以降水門設置時に築造されたと考えられる。

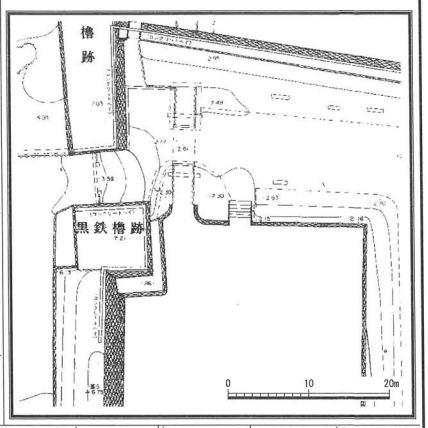
目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	花崗岩	方形切石	ほぼ同規模	切石布積・モルタル目地	布積



史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3031	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	切石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	谷積	
方　位	南西				角石（算木） 左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木） 右	算木にならない	
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	－				石材	花崗岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好										有	a3	b3	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		5.16	5.16	2.69	2.65	2.63	－	82	77	75	77

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

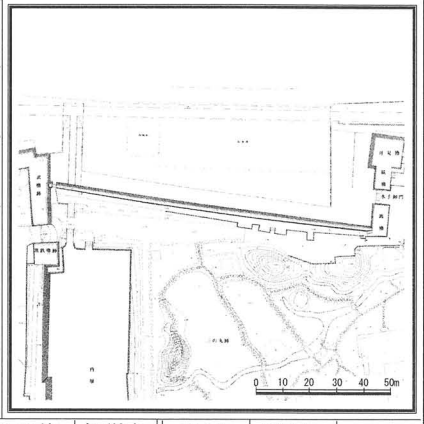
切石谷積、目地モルタル詰め

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸の北西部で内堀に海水を導水する導水路の側壁で、南面石垣である。 ・高さは左隅角で約2.7m、全長は約5.2mである。 ・勾配は77度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の切石を用いた谷積である。右隅角は切石を用いて積み上げられている。左隅角は入隅である。石垣面は一部曲面である。 ・石材は方形で、規模は同一で揃っている。 ・右隅角は算木積になっていない。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。 ・目地には全面モルタルを詰められている。
石垣の変遷	・明治以降水門設置時に築造されたと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

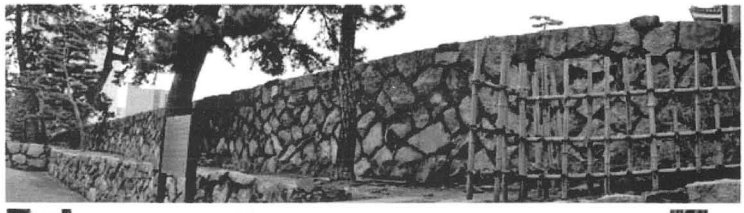
石垣番号	3032	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	切石、割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	谷積、布積(一部)	
方　位	南				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

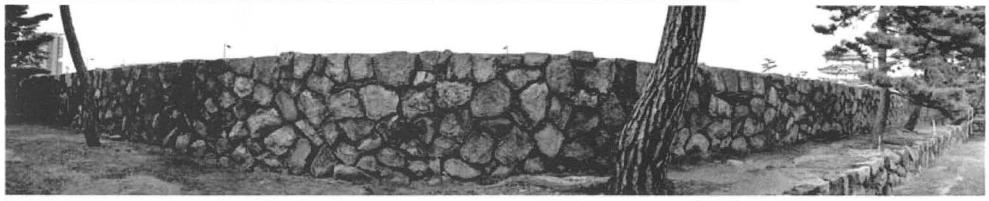
破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好										有	a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	117.16	114.1	2.47	1.38	1.56	80	84	84	72	90

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査	『史跡高松城跡(地久櫓・三ノ丸跡)』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状





全面谷積、左端は布積
※海面埋め立てにあたり新たに積んだものと思われる

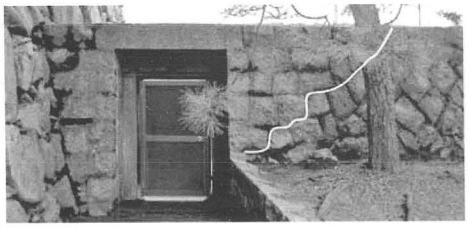
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

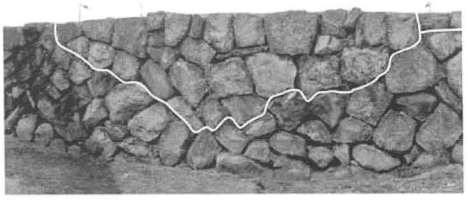
石垣項目別カルテ

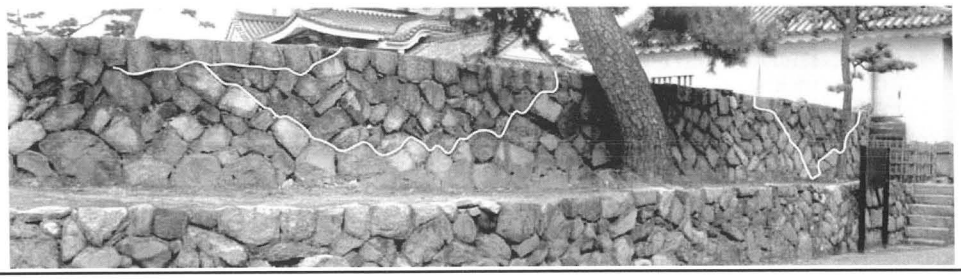
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の武櫓と渡櫓を結ぶ長い南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.4m、全長は天端で約117.2mである。 ・勾配は84度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の切石と割石を用いた谷積で、一部布積が見られる。両隅角とも入隅である。 ・石材は角の取れた丸みのあるものが多いが、方形のものも見られる。規模は標準的なものが多いが、大ぶりのものも見られる。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。 ・中央部で松の樹根が石垣面に食い込んでおり、将来的には破損が懸念される。
石垣の変遷	・江戸時代には塀が所在した場所であり、明治以降に塀の替わりに築造されたと考えられる。 ・築造後も部分的な積み直しがあった可能性がある。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
右側隅角部近傍に天端から下部に至る谷形目地	谷形中側	花崗岩	方形切石	ほぼ同規模	切石布積	谷形部の積み直し
	谷形外側	花崗岩	方形割石		割石谷積	
右中間天端から下部に至る谷形目地	谷形中側	花崗岩	方形割石	ほぼ同規模	割石谷積	谷形部の積み直し
	谷形外側	花崗岩	方形割石		割石谷積	
左隅角部近傍開口部下部から右上がりの目地	左側	花崗岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	異なった石積工法による積み直し
	右側	花崗岩	方形割石		割石谷積	

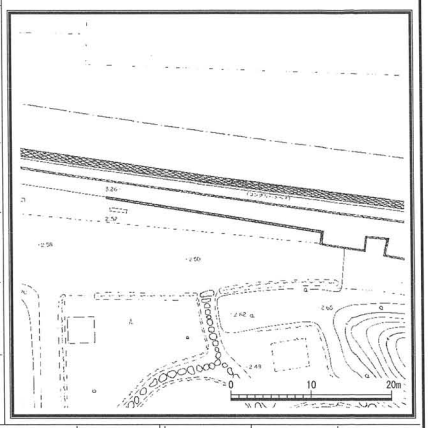






史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3033	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	布積、谷積(一部)	
方　位	南				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	すりつけ？(埋没)			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

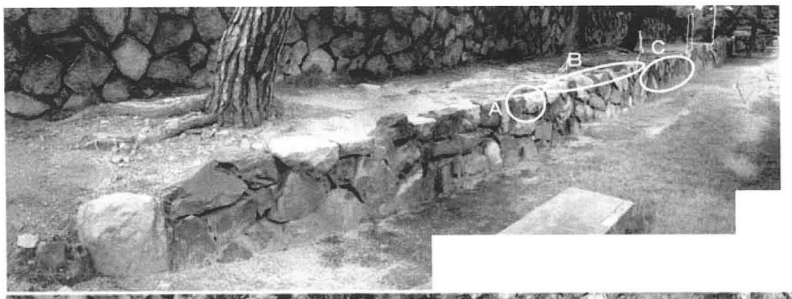


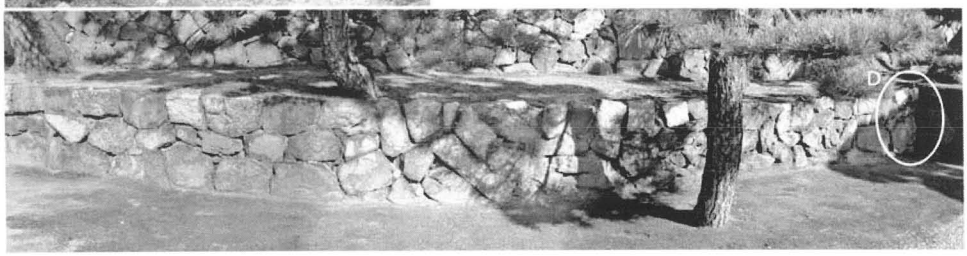
破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
		n1	n1	s1								a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	27.05	26.9	0.47	0.88	0.91	-	88	85	85	81

築造時期	明治以降	改修	有	基底部
修　理		文献資料		
発掘調査	『史跡高松城跡(地久櫓跡・三ノ丸跡)』	その他の調査		
その他記述 1		その他記述 2		

破損現状





A．矢穴
B．天端石のズレ、欠けが目立つ
C．小ハラミ
D．No.3034の石垣に突き当たる
※左端埋没、石材形状色々

備　考	左角勾配一石	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

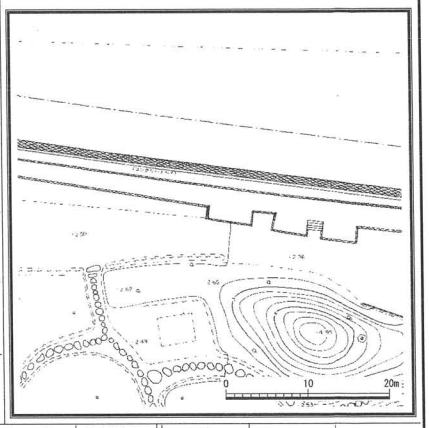
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。左側では地中に埋没している。 ・高さは最も高い右隅角で約0.9m、最も低い左隅角で約0.5mである。全長は天端で約27.0mであるが、左側が埋没しており、本来はもっと長い石垣と考えられる。 ・勾配は85度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた布積であるが、部分的に谷積や乱積も見られる。左隅角は地盤にすり付けである。右隅角は入隅である。 ・石材は方形で角張ったものが多く、規模は標準的なものが多いが、大ぶりのものも見られる。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・天端の石材のズレ、欠損が見られる。 ・全体に乱雑な積み方となっている。
石垣の変遷	・発掘調査において当初の石垣は、約80cm前面に埋没していることが判明しており(№3100石垣)、幕末ないしは明治以降に積み直された石垣と考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	安山岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	布積

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3034	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	西				角石（算木）	左		
角の形状	左隅角	入				右	算木にならない	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	－				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

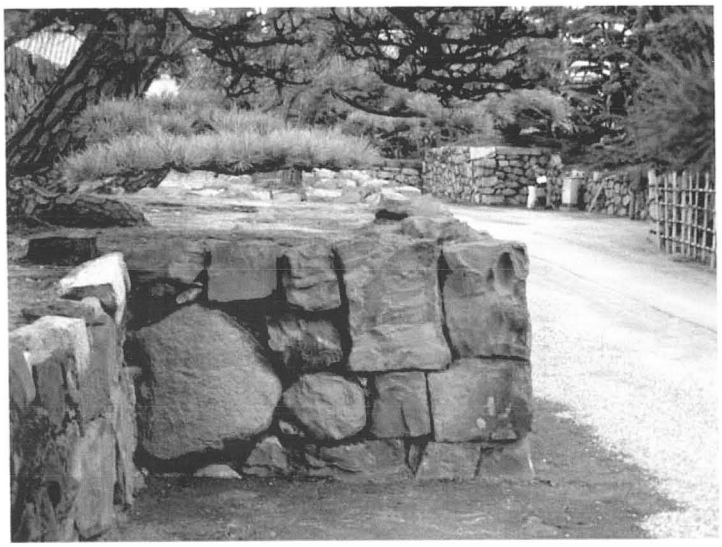


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		(2.54) 1.67	1.66	0.94	0.96	1.02	81	80	－	85	85

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



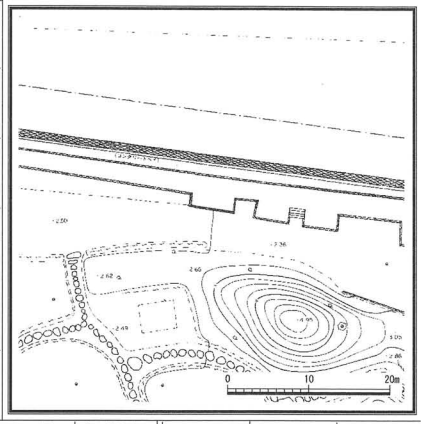
※全面安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考	短い石垣のため中央勾配計測省略	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の西面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約1.7mである。左端は入隅を越えてさらに土中に延長していると考えられるが、その場合の全長は約2.5mである。 ・勾配は80～85度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。左側では大石により笑い積み状になる。右隅角は切石を用いて積み上げられている。左隅角は入隅である。 ・石材は方形で角張ったものが多く、規模は標準的なものが多いが、大ぶりのものも見られる。 ・右隅角は算木積になっていない。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等に見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3035	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	南				角石（算木）	左	算木にならない	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	－				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
			s2									a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	5.11	5.29	1.02	1.05	1.04	85	86	84	82	80

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

A．ズレ
B．石積の乱れ

※全面安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

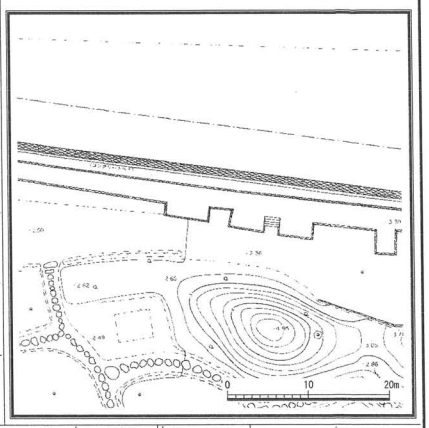
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は天端で約5.1mである。 ・勾配は84度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。両隅角とも安山岩の切石で積み上げられている。 ・石材は方形の角張った形状で、規模は標準的なものが多い。 ・左隅角は算木積になっていないが、右隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・天端石のズレが見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等に見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	安山岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	布積

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3036	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	東				角石（算木）	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	－				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

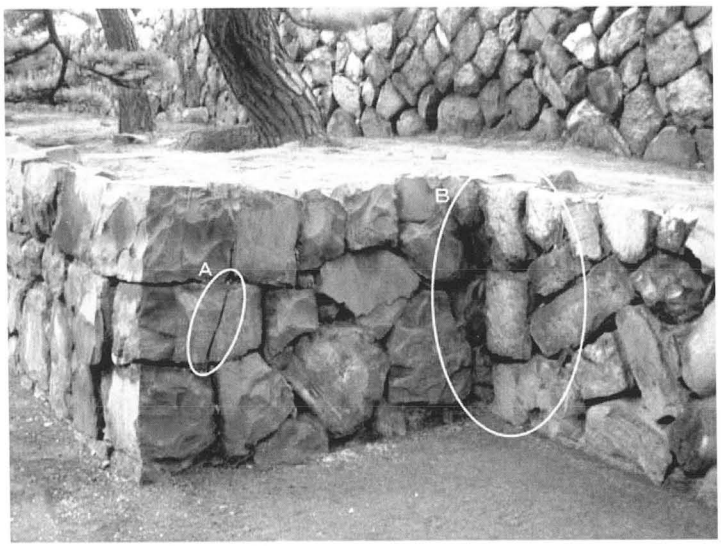


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好				s2							a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		(2.22) 1.52	1.64	1.04	1.05	1.03	80	84	－	85	85

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．ワレ
B．No.3037の石垣が突き当たる

※全面安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考	短い石垣のため中央勾配計測省略	調査年月日	平成16年12月 8日

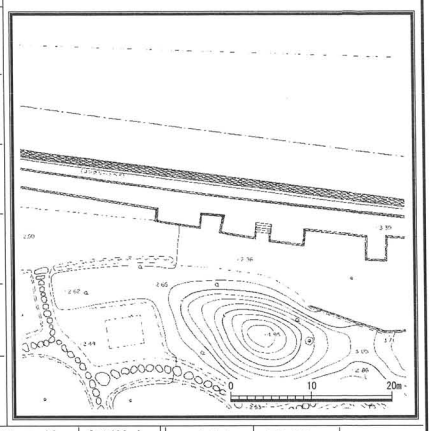
石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の東面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約1.5mである。右端は入隅を越えてさらに土中に延長していると考えられるが、その場合の全長は約2.2mである。 ・勾配は85度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。左隅角は安山岩の切石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状で、規模は標準的なものが多い。 ・左隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・石材のワレが見られるが、概ね良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	安山岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	布積

史跡高松城跡　石垣調査

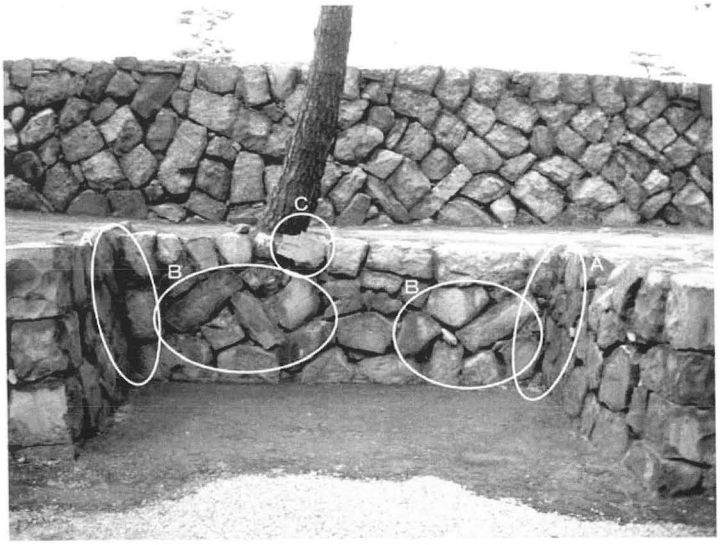
石垣番号	3037	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	谷積	
方　位	南				角石（算木） 左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木） 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	－				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
			t1									a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	3.11	2.89	0.99	1.01	0.96	85	-2	90	90	89

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．両角とも突き当て（両側の石垣の後に積む）
B．谷積
C．ズレ出し、マツの根の影響
※小石が多い、石材形状混じる。
　安山岩が多い。後世のものと思われる。

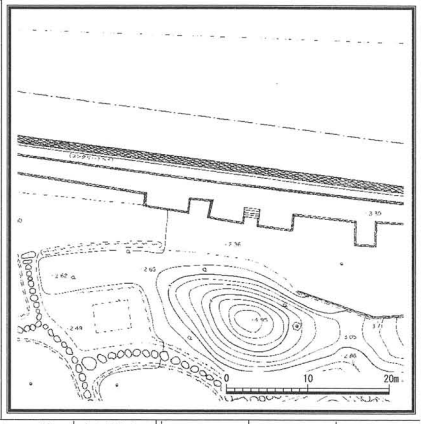
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約3.1mである。 ・勾配は90度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩、花崗岩の割石を用いた谷積である。両隅角とも入隅である。 ・石材は方形の角張った形状や扁平な形状のものが見られ、規模は標準的なものが多いが小ぶりなものも見られる。積み方や石材の形状、大きさが隣接する両側の石垣とは異なり、一連のものではない可能性もある。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・上部の松の影響により天端石にズレが見られる。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3038	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		谷積	
方　位	西				角石（算木）	左		
角の形状	左隅角	入				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	-				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
		n1	n1								有	a2	b2	B

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		2.38	2.09	1	1.01	1.15	89	90	83	87	90

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

A．ヌケ
B．この石のみ花崗岩

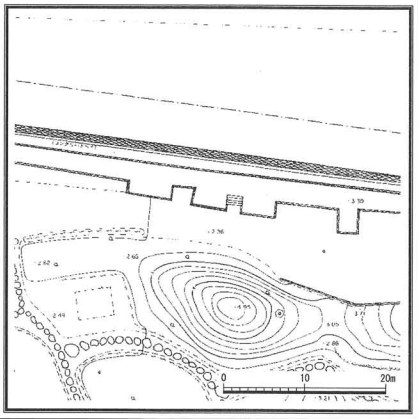
※安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の西面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約2.4mである。 ・勾配は83度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた谷積である。右隅角は安山岩の切石を用いて積み上げられている。左隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状のものが多いが、やや丸みを帯びたものも見られる。規模は標準的なものが多いが、やや小ぶりなものも左側で見られる。 ・右隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・天端石にズレと欠損が見られる。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

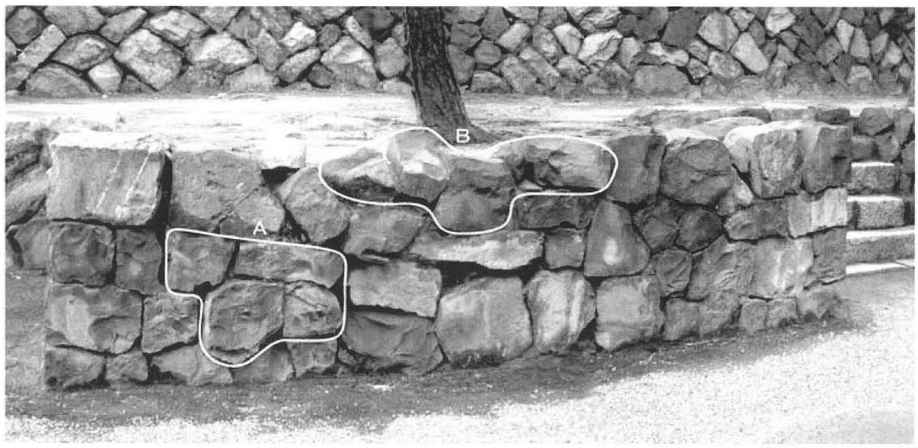
石垣番号	3039	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	南				角石（算木）	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	-				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
			n1	s3								a2	b2	B

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	3.95	4.08	1.05	0.96	1.11	90	-2	-3	-2	88

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．ハラミ飛び出し
B．天端石のズレ（土が減ってきているためか）

※安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

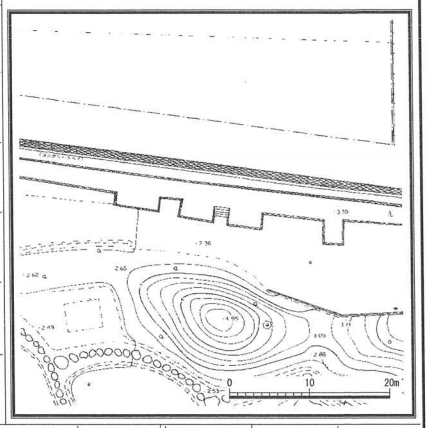
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約4.0mである。 ・勾配は垂直に近く、やや前面に傾く。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。両隅角とも切石を用いて積み上げられている。天端は不揃いである。 ・石材は方形の角張った形状のものが多いが、やや丸みを帯びたものも見られる。規模は標準的なものが多いが、小ぶりなものも見られる。 ・石垣面は、加工面が凹面となる安山岩の特質のため、石垣面全体が不揃いである。 ・両隅角とも完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・天端石のズレと右側に僅かなハラミが見られる程度で、大きな破損には至っていない。 ・石垣背後の表土が流出し、天端石が浮き上がった状態となり、徐々にズレ出し易くなっている。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	安山岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	布積

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3040	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積、谷積	
方　位	東				角石（算木）	左	割石	
角の形状	左隅角	出				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	－				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

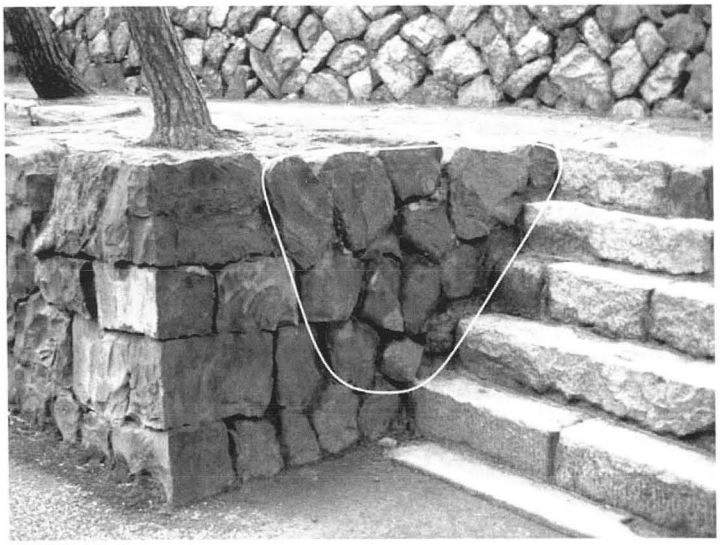


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		2.11	0.86	1.11	1.09	0.26	88	85	83	76	90

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



落とし積み

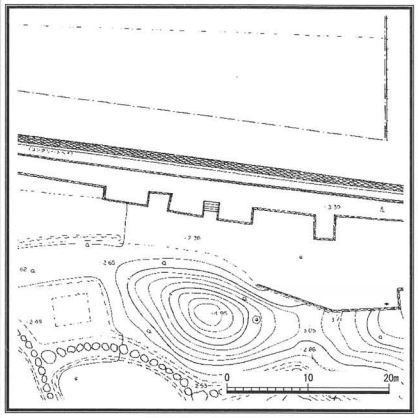
※安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の東面内石垣である。また、多聞塀台へ上る石段の側壁ともなっている。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は天端で約2.1mである。 ・勾配は83度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積であるが、右半は谷積である。左隅角は安山岩の切石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状で、規模は標準的なものが多い。 ・左隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3041	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		切石	石垣位置
石垣部位	石段（後世のもの）				石積工法			
方　位	南				角石（算木）	左		
角の形状	左隅角	入				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	－				石材		花崗岩、安山岩（一部）、凝灰岩（一部）	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	1.92	－	－	－	－	－	－	－	－	－

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

積み直し部分（安山岩）

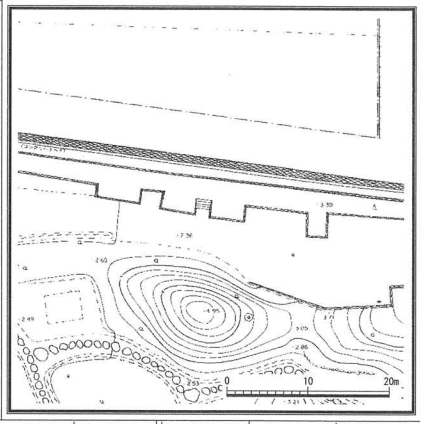
備　考	雁木６段、雁木のため計測不可	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の多聞塀台へ上る石段である。 ・段数は6段、最上段での幅員は約1.9mである。
積み方石材等	・花崗岩の切石を用いているが、最上段は安山岩の小石材が見られる。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石段であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3042	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	谷積、布積	
方　位	西				角石（算木） 左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木） 右	切石	
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	-				石材	安山岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.09	0.86	0.25	1.09	1.07	90	90	86	-4	88

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

一部谷積

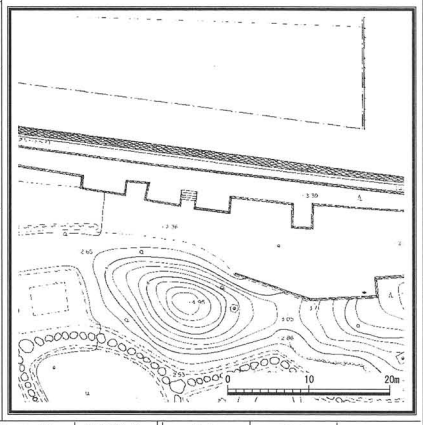
※安山岩で積む。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の西面内石垣である。また、多聞塀台へ上る石段の側壁ともなっている。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は約2.1mである。 ・勾配は86度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた谷積であるが、一部布積も見られる。右隅角は安山岩の切石によって積み上げられている。左隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状である。規模は標準的なものが多いが、やや小ぶりなものも見られる。 ・右隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

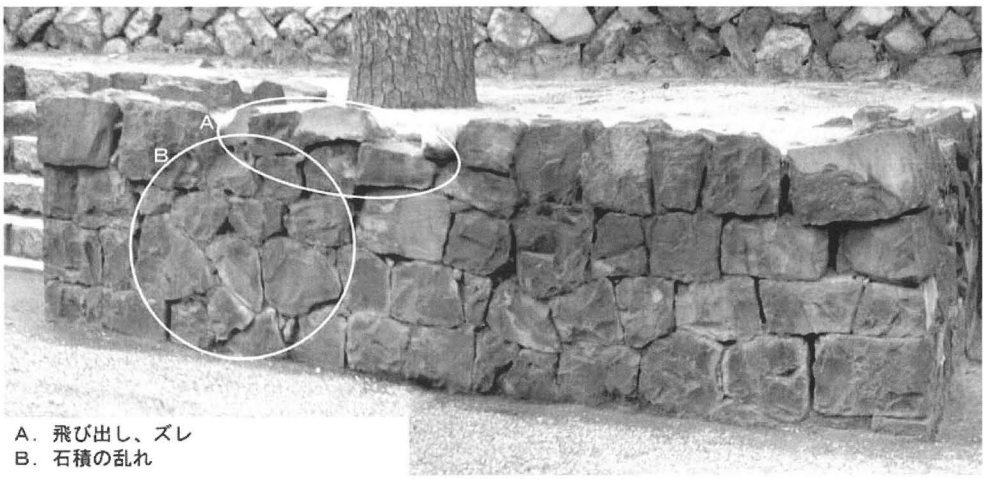
石垣番号	3043	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	南				角石（算木）	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右	切石	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	-				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
			s1n1		s4							a2	b2	B

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		4	4.03	1.06	1.11	1.14	88	87	88	90	84

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．飛び出し、ズレ
B．石積の乱れ

※安山岩で積む。後世のものと思われる。

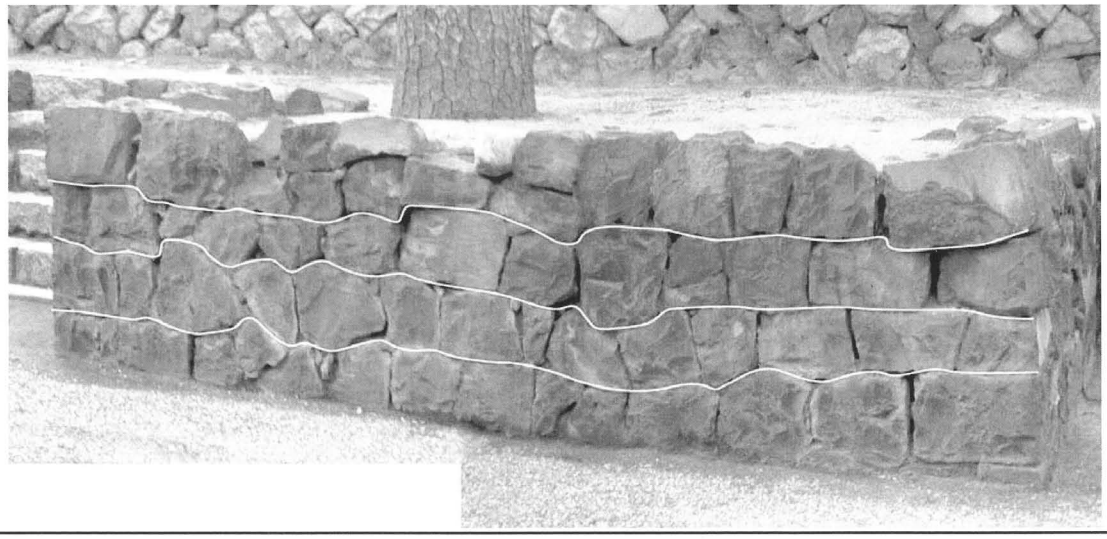
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

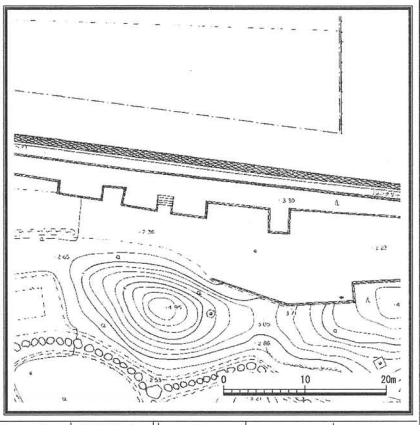
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は天端で約4.0mである。 ・勾配は88度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。両隅角とも安山岩の切石を用いて積み上げられている。 ・石材は方形の角張った形状で、規模も標準的なものでほぼ揃っている。 ・両隅角とも完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・天端の石材にズレが見られる。また、隅角石にワレが見られるが、概ね良好である。
石垣の変遷	・絵図等に見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
全体的に見られる横目地	全面	安山岩	方形割石	ほぼ同規模	割石布積	布積



史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3044	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	東				角石（算木）	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	－				石材		安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好	n1										a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.31	2.11	1.15	0.99	1.05	84	84	85	90	81

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

天端石の欠損

※安山岩で積む。後世のものと思われる。

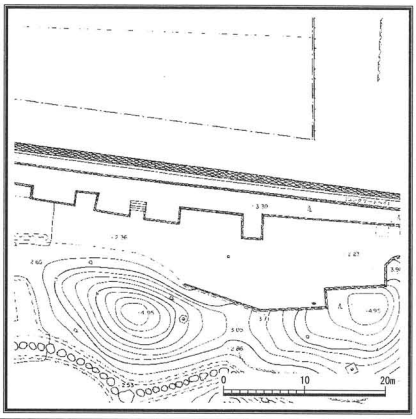
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の東面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約2.3mである。 ・勾配は85度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩の割石を用いた布積である。左隅角は切石で積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状のものが多いが、やや丸みを帯びた小ぶりの石材も見られる。規模は標準的なものが多い。 ・左隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・天端石の欠損が見られるが、概ね良好である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3045	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		乱積	
方　位	南				角石（算木）	左		
角の形状	左隅角	入				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	-				石材		花崗岩、安山岩	
転用石	無				刻　印		無	

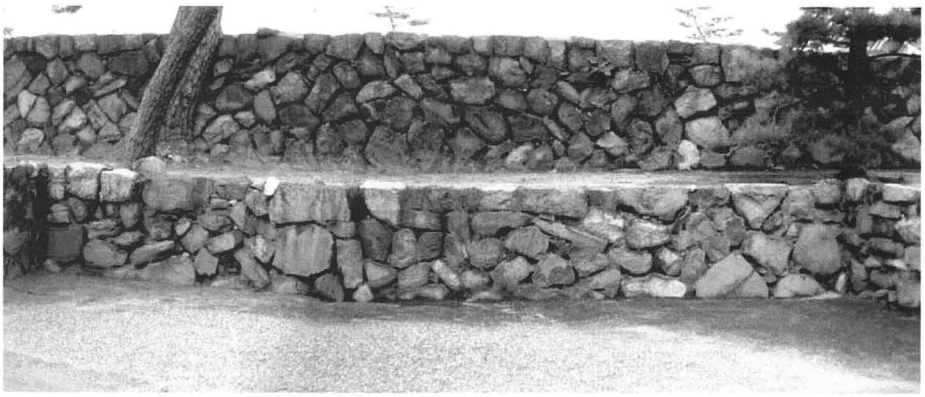


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		7.81	7.78	1.06	1.02	1.14	81	88	-2	85	87

築造時期	明治以降	改修	基底部
修　理		文献資料	
発掘調査		その他の調査	
その他記述 1		その他記述 2	

破損現状



※大半が安山岩。後世のものと思われる。

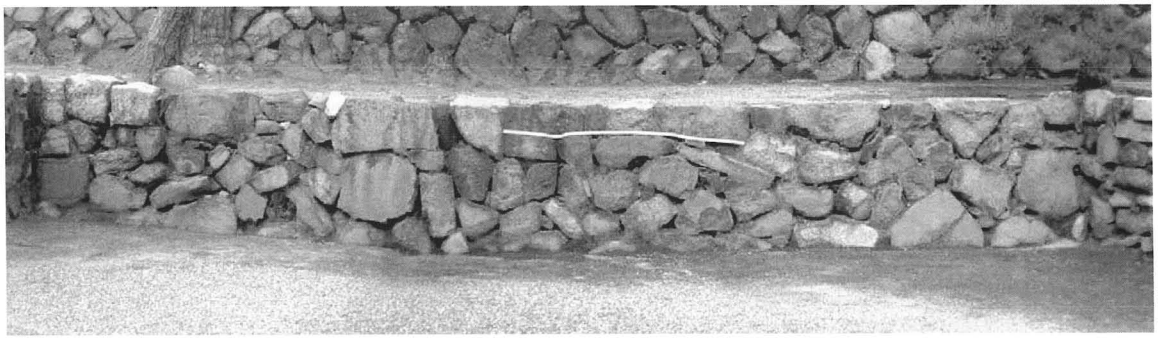
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.0m、全長は天端で約7.8mである。 ・勾配はわずかに逆勾配となっている。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた乱積であるが、右隅角近くで部分的に谷積が見られる。両隅角とも入隅である。 ・石材は方形の角張った形状や扁平な形状のものが見られ、規模は標準的なものが多いが、大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・天端石の欠損が見られるが、概ね良好である。
石垣の変遷	・絵図等には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

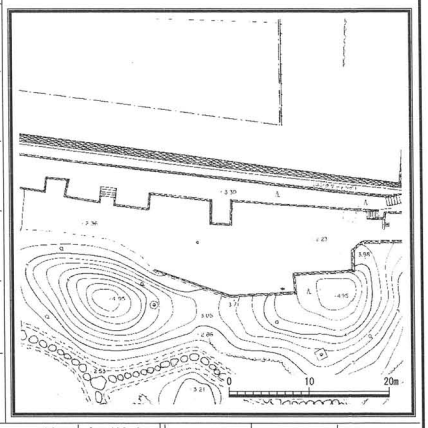
目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
中央部笠石下の目地	上方	安山岩	方形割石	笠石は大ぶり	割石布積	笠石の積み上げ
	下方	安山岩	方形割石		割石乱積	



史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3046	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	布積	
方　位	西				角石（算木）左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木）右	割石	
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	－				石材	花崗岩、安山岩、凝灰岩（一部）	
転用石	無			刻　印		無	

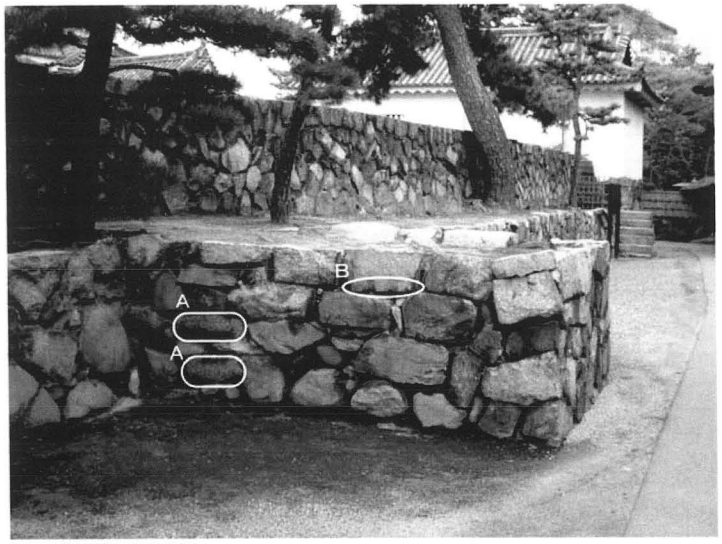


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	3.05	2.97	1.14	1.13	1.19	87	88	90	87	86

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．凝灰岩（豊島）
B．矢穴

※安山岩、凝灰岩、花崗岩が混在。後世のものと思われる。

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

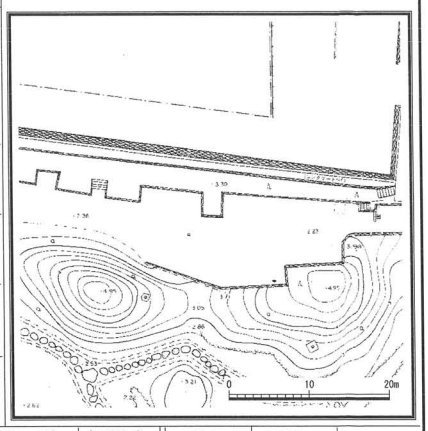
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の西面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は天端で約3.1mである。 ・勾配は90度と急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた布積である。右隅角は割石を用いて積み上げられている。左隅角は入隅である。 ・石材はやや扁平な形状のものが多く見られ、規模も標準的なものが多いが、やや小ぶりなものも見られる。 ・右隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
上部から中段にかけて見られる横目地	上部から中段	安山岩	方形割石	大小混在	割石布積	布積

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3047	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法	谷積	
方　位	南				角石（算木） 左	割石	
角の形状	左隅角	出			角石（算木） 右	切石	
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	

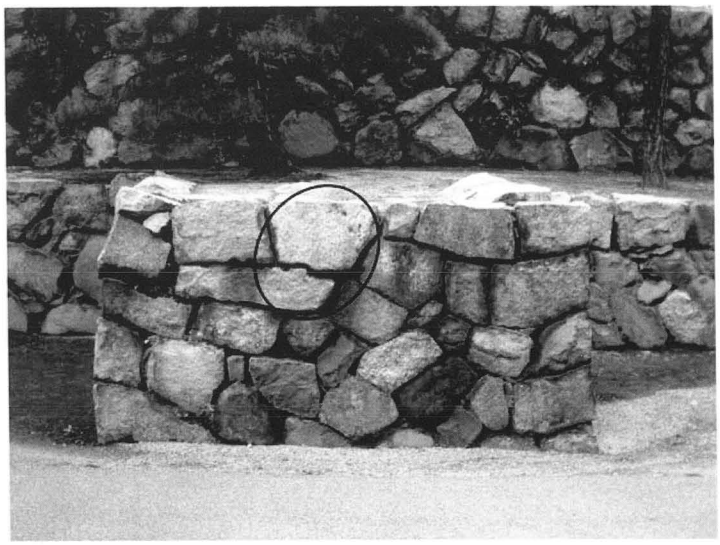


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好		n1									a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	2.17	2.35	1.19	1.11	1.16	86	85	80	86	85

築造時期	明治以降	改修	新規	基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



ズレ

※花崗岩が多い。後世のものと思われる。

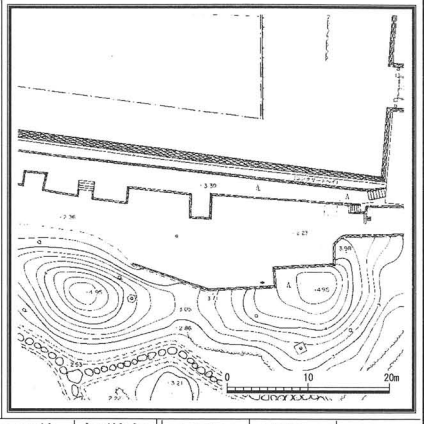
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.1m、全長は天端で約2.2mである。 ・勾配は80度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた布積であるが、一部谷積も見られる。左隅角は割石、右隅角は切石を用いて積み上げられている。 ・石材は方形、やや扁平、丸みがあるものなど一定でなく、規模も大小混在する。 ・両隅角とも完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3048	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		割石	石垣位置
石垣部位	その他（後世のもの）				石積工法		布積	
方　位	東				角石（算木）	左	切石	
角の形状	左隅角	出				右		
	右隅角	入			その他特記			
上部構造物	－				石材		花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印			無	

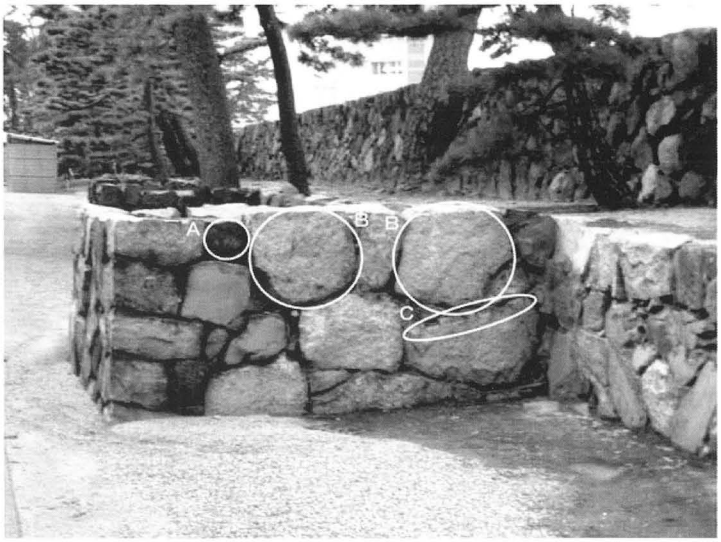


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		2.8	2.7	1.15	1.2	1.18	85	86	84	86	83

築造時期	明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



A．後世に積む
B．やや大石
C．矢穴

※花崗岩が多い。後世のものと思われる。

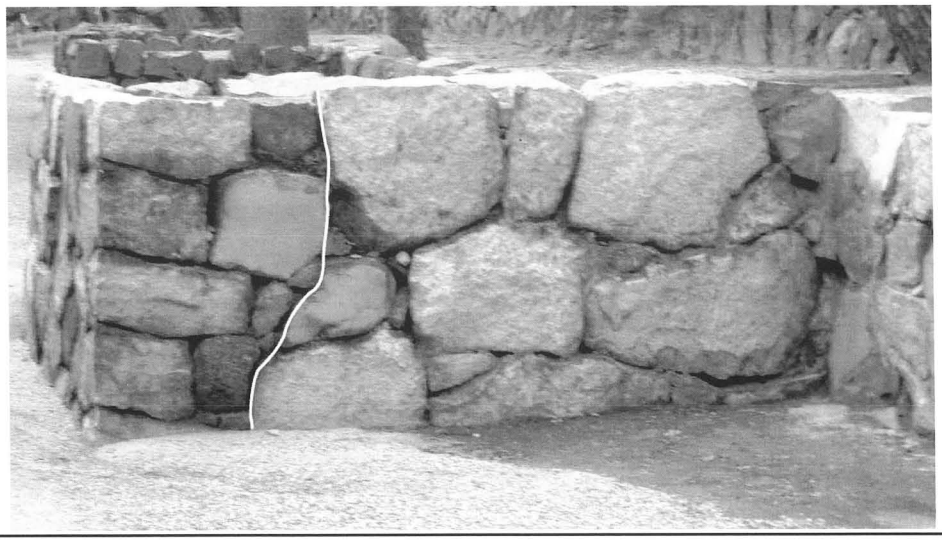
備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の東面内石垣である。 ・高さは中央部で約1.2m、全長は天端で約2.8mである。 ・勾配は84度とやや急である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩、安山岩の割石を用いた布積である。左隅角は切石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は方形の角張った形状のものが多く、規模は比較的大きな花崗岩の石材と小ぶりの安山岩が見られる。 ・左隅角は完成度の低い算木積である。 ・転用石、刻印は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・絵図には見られない石垣であり、明治以降のものと考えられる。

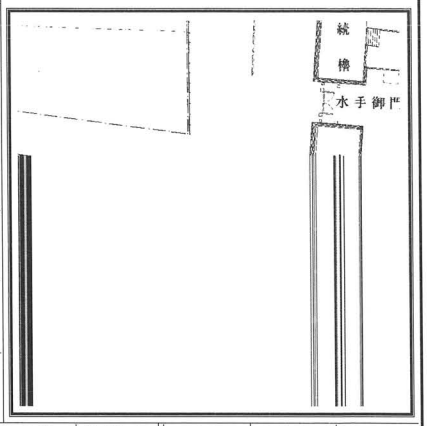
目地の状況

目地の位置、状況	目地の両側	石材種類	石材形状	石材規模	積み方	目地の発生事由
左隅角部に天端から下部に至る縦目地	左側	花崗岩	方形切石	左側石材はやや小ぶり	切石布積	隅角部の積み直し
	右側	花崗岩	方形割石		割石布積	



史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3049	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	野面	石垣位置
石垣部位	内				石積工法	乱積、谷積(一部)	
方　位	南				角石(算木) 左		
角の形状	左隅角	入			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	-				石材	花崗岩、安山岩	
転用石	無			刻　印		無	



破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b2	D

石垣規模		天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
		18.59	17.05	1.13	1.17	0.23(上)/1.20(下)	83	85	81	81	90

築造時期	不明	改修		基底部	地山
修　理		文献資料			
発掘調査	『史跡高松城跡(地久櫓跡・三ノ丸跡)』	その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

谷積（積み替え？）

※花崗岩が多い

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

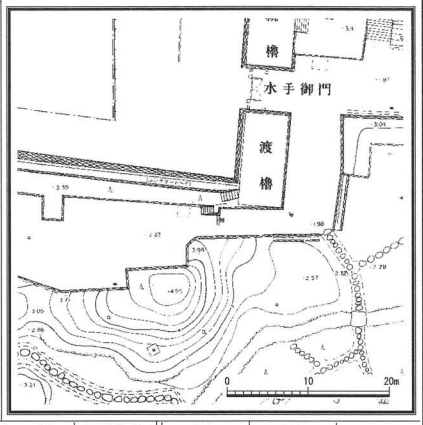
石垣項目別カルテ

位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の南面内石垣であり、渡櫓に取りつく。 ・高さは中央部で約1.2m、全長は天端で約18.6mである。 ・勾配は81度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は安山岩、花崗岩の割石を用いた乱積であるが、部分的に谷積も見られる。両隅角とも入隅である。 ・石材は方形の角張った形状や丸みのあるもの、扁平な形状のもの等混在する。規模は標準的なものが多いが、大小混在する。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・石垣前面の発掘調査において、石垣の栗石と考えられる礫が検出されており、当初の石垣はやや前面に所在したと考えられる。 ・現在の石垣は、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3050	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	切石	石垣位置
石垣部位	石段（後世のもの）				石積工法		
方　位	西				角石（算木）左		
角の形状	左隅角	入			角石（算木）右		
	右隅角	出			その他特記		
上部構造物	－				石材	花崗岩	
転用石	無				刻　印	無	

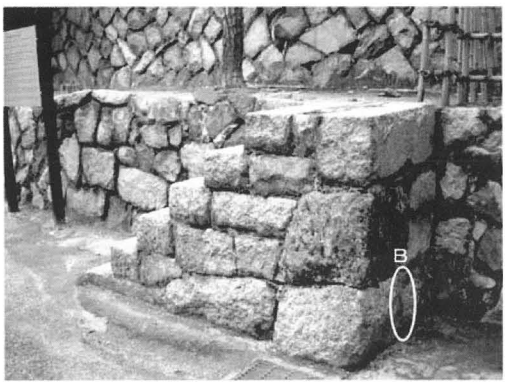


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好										有	a3	b2	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	0.92/0.75/0.94	0.88/2.14/0.9	1.27	1.27/1.23	1.27/1.27	90/-/82	-/-/86	-	-/81/87	-/82/85

築造時期	明治以降	改修	基底部
修　理		文献資料	『旧高松御城全図』
発掘調査		その他の調査	
その他記述 1		その他記述 2	

破損現状



A．長い方形石材（95cm×30cm×30cm）
B．モルタル目地

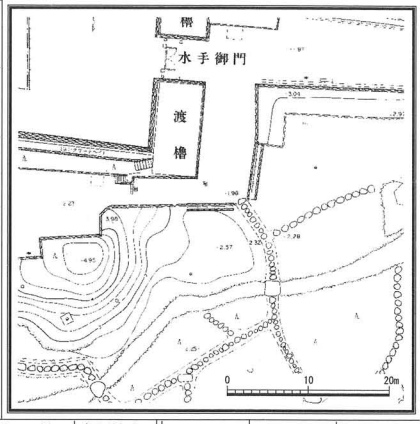
※後世に積まれたものと思われる

備　考		調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸北部の多聞塀台へ上る雁木である。 ・段数は6段、最上段での幅員は約0.9mである。
積み方石材等	・花崗岩の長い方形切石を用いて積み重ねた石段である。側面は切石の布積である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。 ・踏面の目地にモルタルが詰められている。
石垣の変遷	・現在、渡櫓に接して東向きに上る構造となっているが、『旧高松御城全図』によると、現状よりやや西寄りに位置し北向きに上る構造が描かれていることから、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3051	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方		野面	石垣位置
石垣部位	内(庭)				石積工法		乱積	
方　位	南				角石(算木)	左		
角の形状	左隅角	すりつけ				右	算木にならない	
	右隅角	出			その他特記			
上部構造物	-				石材		花崗岩	
転用石	無				刻　印		無	

破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b3	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	5.15	5.08	0.38	0.49	0.7	-	80	78	-2	-

築造時期	新郭造築期・明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状

面が揃っていない
石垣というよりも庭園の石

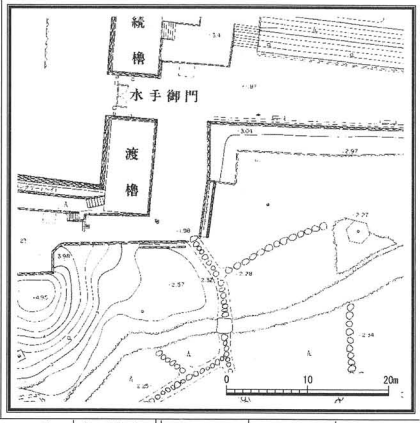
備　考	左・右角勾配一石のみ計測不可	調査年月日	平成16年12月 8日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸の庭園北側の南面内石垣である。 ・高さは中央部で約0.5m、全長は約5.2mである。 ・勾配は78度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の野面石を用いた乱積である。左隅角は地盤にすり付けである。右隅角は野面石を用いて積み上げられている。 ・石材は不定形の角張ったものや丸みのあるもの等形状は一定ではなく、規模も大小混在する。 ・右隅角は算木積になっていない。 ・庭園的な積み方である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・新郭造築期ないしは、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	

史跡高松城跡　石垣調査

石垣番号	3052	地区	三ノ丸	石垣様式	積み方	野面	石垣位置
石垣部位	内(庭)				石積工法	乱積	
方　位	東				角石(算木) 左	算木にならない	
角の形状	左隅角	出			角石(算木) 右		
	右隅角	入			その他特記		
上部構造物	竹柵				石材	花崗岩	
転用石	無			刻　印		無	

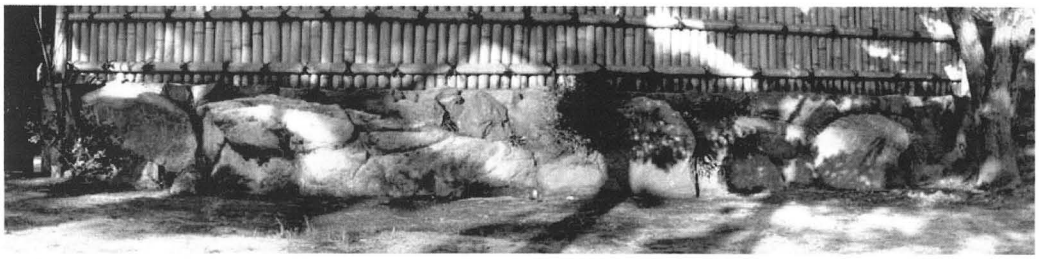


破損状況と破損要因	良好	欠損	ズレ	ハラミ	ワレ	欠け剥離	陥没	崩落	間詰のヌケ	その他焼損等	軽微な改変	破損状態	影響の程度	危険度
	良好											a3	b3	D

石垣規模	天端長	基底部長	左端高	中央高	右端高	左角勾配	左端勾配	中央勾配	右端勾配	右角勾配
	7.11	7.28	0.77	0.68	0.51	−	87	80	81	90

築造時期	新郭造築期・明治以降	改修		基底部	
修　理		文献資料			
発掘調査		その他の調査			
その他記述 1		その他記述 2			

破損現状



石垣というより庭園風に様々な石材、大きさの自然石を並べる

備　考	左角勾配一石のみ計測不可	調査年月日	平成16年12月 9日

石垣項目別カルテ	
位置・規模等	・本石垣は三ノ丸の庭園北側の東面内石垣である。 ・高さは中央部で0.7m、全長は天端で約7.1mである。 ・勾配は80度と平均的である。
積み方石材等	・石の積み方は花崗岩の野面石を用いた乱積である。左隅角は野面石を用いて積み上げられている。右隅角は入隅である。 ・石材は不定形の角張ったものや丸みのあるもの等形状は一定ではなく、規模も大小混在する。 ・左隅角は算木積になっていない。 ・庭園的な積み方である。 ・転用石、刻印は見られない。 ・目地は見られない。
破損状況	・破損は見られず、良好な状態である。
石垣の変遷	・新郭造築期ないしは、明治以降のものと考えられる。

目地の状況	